

《 鎌倉の名庭を訪ねる 》

前日来の雨も晴れ、うららかな春の日差しの中、頼朝・鎌倉時代に築かれた寺跡のほか鎌倉の名庭を、鎌倉のスペシャリスト・大貫昭彦先生のご案内で、名調子の講釈を受けながら楽しく巡りました。

＜実施日 平成31年3月5日（火） 参加者 27名＞



《大塔宮でバスを降りて》

バスを降車して、朝の挨拶から講話の始まり。暖かい日差しのもと参加の皆さんも笑顔です。



《瑞泉寺へ向かう道すがら》

鎌倉の風情溢れる道すがら、ちょっとした斜面の陰に、春の兆しの小さな草花が。植物にも造詣の深い先生の説明も、珍しい植物など、興味深く聞きました。

「ほら・・・これがトリカブト・・・」 などなど。



《瑞泉寺の境内で》

小山に囲まれた静かな境内の中に、オウバイ、フユザクラ（鎌倉市天然記念物）などが咲いていました。庭内には久保田万太郎、高浜虚子、大宅壮一などの文学碑などもありました。

瑞泉寺の開基は二階堂道蘊（1267～1334）

境内は全域が、国指定史跡となっています。



《瑞泉寺庭園》

開山は、かの有名な夢窓疎石（1275～1351）。

紅葉ヶ谷を囲む三方の山が天然の垣根として西の空に富士山を仰ぐこの地を選んで夢窓国師は庭園を造られた。鎌倉石の岩盤に彫刻的な手法で造園したこの庭園は、鎌倉に残る鎌倉時代唯一の庭園の由。このような歴史と見どころを、大貫先生から詳しく伺いました。



《永福寺（ようふくじ）の旧跡で》

源頼朝が奥州に藤原泰衡を攻めて勝利し、鎌倉に帰還した後、奥州で見た泰衡管領の精舎を鎌倉にも造りたい、と考え、永福寺を造営・落成したもの。その遺構を復元するべく、近年調査が進められていたが、いよいよ復元開始、その進捗の過程で、公開されているものです。そのあたりの、経緯や歴史について、大貫先生から解説を聴きました。



《永福寺の復元想像CG》・制作：湘南工科大学

遺構・復元の造作物の場所のそばに、復元想像の、コンピューター・グラフィックが展示されていました。いつの日に完全復元されるのでしょうか・楽しみですが・。



《永福寺・復元土台と礎石》

当時と同じものと考えられる木材、石、土を使った復元土台が、鎌倉時代に所在していたと確認されている場所位置に造成されていました。

現在は、一部公園仕様となって公開されています。



《復元遺跡の前で》

参加者の皆さんの笑顔と、「西柴」の旗。ピンクと黄色・・・。

わたし、撮影担当は写っていません。 残念・・・。



《鎌倉宮にて》

鎌倉宮の休憩所で、各自持参のお弁当をひろげました。

そのあと宮司の方のご案内をいただき、鎌倉宮の御由緒のほか、大塔宮護良親王が幽閉されていたと伝わる「土牢」の前で、その物語を聴き、往時のことに思いを巡らせました。



《鎌倉宮・宝物殿》

護良親王ゆかりの宝物、また奉納品を所蔵しています。護良親王馬上像や山本五十六の墨書掲額もありました。本宮は明治2年4月の創建と歴史は浅いのですが、明治天皇が維新の大業は親王の御先徳によるものと深く追慕敬仰され、勅命で創建されたということの由。

今年度（平成30年度）の散策は、これで終了です。

新年度（2019年）の散策は、6月から始まります。新年度の予定は決定しています。

今後発行される「西柴団地自治会の回覧」、各戸配布の「西柴団地・自治会だより」

また、このホームページでお知らせします。

（おわり）